

目標達成計画

作成日：平成25年11月 20 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	27, 34, 55	認知症の進行が進まれていると考えられる入居者が、トイレなどの場所がだんだん分からなくなり、その結果職員の目の無い時に、離脱されるようになった。職員による利用者の所在把握力の向上とそのための対策が必要。また、離脱発見時の対応の仕方を協議しておく必要がある。	職員間で連携し利用者の所在を見失いようにする。動こうとされる利用者の意思をきき、適切な対応をとるようにする。	お互いに「Mさんほどこ」の声かけをし、所在を確認する習慣をつける。また定時確認や定時巡視などの対策をとる。また、離脱を発見したら止めるだけでなく、利用者の思いに沿って、一緒に外出したりして気分転換を図る。	2ヶ月
2	23, 24, 25, 26, 27, 33	入居者一人一人のグループホームでの生活が、個々の利用者の意欲や意向を実現した暮らしになるような習慣的な仕組がない。時節や行事、意向の発言時にそのつど実施するに留まっていて、単発的になっている。また、利用者の意向に出てくると思われる終末期や「死」に向けてのスピリチュアルケアや臨床宗教師の導入を考えていく。	個々の利用者の意欲や意向を実現した暮らしをするためには、調理、掃除、入浴、食事介助、トイレ介助などの時間のほかに、「傾聴」や「聞き書き」といった時間をつくり、それまでの暮らしや本人の思いや希望などを聴く習慣をつくる。	勤務表作成時に時間と人員を確保し、利用者の話を聴く時間を確保し、また適宜記録しておく。その内容によっては「おたより」の記事や「書作」の題などにして、家族等に伝えることができるようにする。	3ヶ月
3	2, 4, 5, 35	火災を想定した避難訓練は最低年2回は実施している。また、スプリンクラー設置準備やコンセントの点検などを行って防火に備えているものの、過去にあった洪水や古枝地区特有の土石流災害への備えが具体的にない。	運営推進会議などで、近隣の方々とともに防災マップなどを作成し、避難訓練を地区の人々とも一緒に実施するように努める。	グループホーム門前独自で防災マップを作成し、それをもとに災害避難訓練をグループホーム単独か又は地域の方々と実施する。過去の災害誌をもとに職員研修を実施する。	4ヶ月
4	30, 47	入居者が毎日服用している薬の副作用を点検したり、相談したりする日常的な資源がない。いち早く副作用に気づき、主治医の受診につながるようにしたいが症状と副作用との関係があるのか、ないのか判断するのが難しい。	薬の副作用をいち早く発見し、迅速に対応し、利用者の健康を害しないようにする。	薬の服用の記録で、薬が変わった日時を確実に記録し健康状態に変化がないか、副作用と思われる症状がでていないか注意してみていく。変化が見られたときは、ただちに主治医に連絡、又は受診し指示を仰ぐ。訪問薬剤管理の活用も考える。	4ヶ月
5	52, 53, 54	炊事、洗濯、掃除などの用具類や、家具、調度などのメンテナンスの仕方、メンテナンス用具類などについて、適切で体系的な知識や手法が不足し、衛生面や道具類、調度品、建物などの維持管理に不安がある。	ホームの生活を安心して暮らしやすい環境とするために、炊事、洗濯、掃除などの適切な用具類の準備やそれらのメンテナンスの仕方、メンテナンス用具類など、利用者の習慣や経験なども生かせるような、家政学的な知識や手法を探究していく。	年度ごとに計画を立てて、知識や経験を蓄積していく。25年度はエアコン、換気扇、コンセントまわりの掃除方法を研究し、26年度は洗濯、衣類の手入れ、布団類の手入れなどを研究していく。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。